



‘お祭りの雑学’ 2018改訂版

「柴五のお祭りの運営」と「お祭りで使われる‘ことば’」について

まず、柴五町会のお祭りの運営についてご説明させていただきます。
町会の会計は「一般会計」と「特別会計」の2本立ての会計で運用されています。

一般会計とは・・・

皆さんから町会費（月400円）としてお預かりしたもので日常の町会の業務や本部や専門部が主催する行事の運用などに使わせて頂いております。

例えば、”柴五だより”の発行や各専門部の活動費、会館の電気、ガス、水道費の光熱費、赤い羽根募金などの寄付、各行事に必要な保険料金等々に使わせていただいています。

お祭りの費用を「一般会計」（町会費）から支出することは有りません



特別会計とは・・・

会館の修繕や工事、災害等の緊急時の出費に備えて蓄えている特別な予算です。

例えば、平成26年度は会館のエアコンの交換、平成29年度は会館の塗装と雨樋の修理の費用を特別会計から支出しています。

特別会計は過去にさまざまな形で町会の皆さんから頂いた寄付が原資となっています。

お祭りに必要な費用 どうしているのでしょうか。

全てが、お祭りの寄付(花掛、喜捨)と模擬店の売上で賄われています。

ですが、お祭りで必要となる買物などは寄付が集まる前におこななければなりませんので、いったん「特別会計」から資金を貸してもらっています。

お祭りを行うことで集まった寄付と模擬店の売上を「特別会計」に返済しています。
お祭りの収入は毎年変動しますので借りた金額ではなく、寄付や模擬店の売上の収入の全額を「特別会計」に戻すことになっています。

例年の規模でお祭りをを行うためには、80万円～90万円の経費が必要です。
寄付と模擬店の売上を合わせた収入も、ほぼ80万円～90万円ですが、ここ数年は寄付(花掛)が減っていく分を模擬店の売上を伸ばすことでなんとか帳尻を合わせています。

会館も老朽化が進んでおり、水回りなどの修繕や大地震に備え耐震工事もしなければと考えています。お祭りから「特別会計」に返済する金額を増やすことができれば、修繕や工事が必要になったときに、そのための寄付の負担が少しでも減らせるのではないかと思います。

年に一度の”お祭り”ですので、できるだけ楽しく、ちょっと贅沢をして盛り上がりたいのは誰もが思うことで町会本部の思いも例外ではありませんが、赤字を出してしまえば「特別会計」の資金を減らしてしまうことになってしまいます。結果、会館の改修や非常時に使うことができる資金が減ってしまうことになってしまいます。本当に、なんとも悩ましいところです。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



(お祭りで使われる'ことば')



【氏神（うじがみ）】と【氏子（うじこ）】

氏神とは、住む土地の鎮守の神。産土神（うぶすながみ）のことでこの地域では、一般に「立川諏訪神社」を指します。

氏子とは、産土神（うぶすながみ）が守ってくれる地に住む人です。

【御輿（みこし）】

「神輿」とも書くそうです。神幸（祭礼）の際、神体が乗るとされる輿（こし）のこと。

【御旅所（おたびしょ）】

神社の祭礼に、神輿（しんよ、みこし）が仮にとどまる場所のことを言うそうです。

柴五のお祭りでは、町内をお神輿が巡行する際の休憩場所のことを言います。

有志の方に場所を提供していただき、手を尽くしたおもてなしを頂くこともあります。

【神酒所（みきしょ）】

お祭りの期間中は柴五の会館に祭壇を作ります。そこで立川諏訪神社の神主さんに神事を執り行っていただくことにより、柴五の会館が神酒所となります。

【お捻り（おひねり）】

祝儀（しゅうぎ）のためのものでお金を紙に入れて捻ったもののことです。

町会では、御神輿の巡行などに参加してくれた子供たちにお菓子などと一緒に差し上げています。

【喜捨箱（きしゃばこ）】

喜捨（きしゃ）とは、寄付のことを言います。

町会では、お神輿の巡行の際に子供たちが寄付を入れる箱の喜捨箱（きしゃばこ）を持って歩いていますので子供たちに声をかけて喜捨（寄付）していただければ幸いです。

町会の皆さんのお気持ちですので少額でも大歓迎です。宜しくお願い致します。

【花掛（はながけ）】

花（はな）とは、祝儀のことです。

町会では、町会主催の行事（お祭り）への寄付のことを言います。

お祭りの期間中に柴五の会館の中に受付が作られ、そこでお受けいたします。

寄付していただいた方のお名前と寄付金額を書いた紙を公園内に設置した掲示板に掛けます。それを「花掛」と呼んでいます。

“お礼は倍返し”の習慣から花掛けに掲示された寄付金額は実際の寄付金額の倍の金額にしています。

